

春城日誌

一の辰四十二年
一月以降

特別
14
1919
549





176814

春成日法

明治四十一年一月



元旦、是、新年の祝の名香をささげ、
 竹鳥鳴と伝りのつゝ断りの桜花を打ち賀
 客を謝す、自らも新年の祝を慶す、回春
 節より例年のごとくお推し進め奉る、是
 迄一と終り、高木方に行き、石原
 を為す、幸々たる差あつた入用あり、元禄の
 山折處十人前を辨ぬ、花中、正の枝よ
 り、電波あり、由京へ送る、次中、命に於

と書に交えん 御前より 〇〇〇〇〇〇

二〇

明、李の書知しし 和名の哥無新に
そ尺の碑銘を控 ともま、少くは鎮し
物も亦多 雄方木操 録多抄道お交、
十多録、寛政し七 ぬ 高木と 節のえお
殿の書蹟を 睡山 華山の 函箱を
借り 考し せ ぬ ぬ

棟原製

三〇

明、李の書知しし 和名の哥無新に
そ尺の碑銘を控 ともま、少くは鎮し
物も亦多 雄方木操 録多抄道お交、
十多録、寛政し七 ぬ 高木と 節のえお
殿の書蹟を 睡山 華山の 函箱を
借り 考し せ ぬ ぬ

明、高田守備、書を興ふ、旅命甘妻、國其
功、高田守備、し、別り、古代、高田守備、一遣、之
東、本、守、の、画、お、を、辨、小、去、中、守、但、守、和
取、之、之、乃、向、之、才、未、之、又、お、之、之、中、守、
又、此、の、之、之、才、未、之、乃、向、之、才、未、之、又、お、之、之、中、守、
初、中、守、之、乃、向、之、才、未、之、又、お、之、之、中、守、
一、之、中、守、之、乃、向、之、才、未、之、又、お、之、之、中、守、
書、守、之、乃、向、之、才、未、之、又、お、之、之、中、守、
不、在、也

東林同製

明、在、来、巴、利、守、之、乃、向、之、才、未、之、又、お、之、之、中、守、
才、正、才、未、之、乃、向、之、才、未、之、又、お、之、之、中、守、
印、話、之、乃、向、之、才、未、之、又、お、之、之、中、守、
一、守、之、乃、向、之、才、未、之、又、お、之、之、中、守、
才、正、才、未、之、乃、向、之、才、未、之、又、お、之、之、中、守、

之、守、之、乃、向、之、才、未、之、又、お、之、之、中、守、
才、正、才、未、之、乃、向、之、才、未、之、又、お、之、之、中、守、
書、守、之、乃、向、之、才、未、之、又、お、之、之、中、守、
不、在、也

ついで恐ろしきものあり。此れを名に
角大伴四月しるしを科と云ふに
決して教へらる

十四

時、滋味地多、及好滋味、此れを
す。子多、あつたにせしむ、山向
す。ゆの印、何れも海、授け、
と授けらる、古の事、
し印と高らしむる、
高、あつた、行、
と授けらる、古の事、
し印と高らしむる、
高、あつた、行、

東林堂

丸太の包、其の代物、
水、外、植、木、
す、二、細、印、
珠、
多、
先、
ら、
珠、
を、

十五

材を多く得るに由る也

十七

明、刊行の事未言、行き書画を鑑
古、毒修し、四代、の、拂、由、峰、二、商
一、雪、花、果、を、遊、る、を、校、地、種
入、る、所、の、虫、と、由、狐、と、漱、く、未、多、白
し、し、ま、の、す、七、身、の、桑、式、に、由、り、寺
一、と、中、の、所、也、在、此、に、一、し、し、の、由、也
の、修、え、ん、う、ま、す、事、也、

東林百卷

十八

明、小、琴、卯、七、事、流、事、未、方、と、流、名、香
念、存、星、一、流、年、の、代、花、心、香、能、也
一、と、流、後、由、務、有、二、の、能、録、る、と、流、の
七、事、の、能、流、後、し、し、と、云、く、り、刊、行、也、
多、る、事、流、を、見、る、六、所、又、能、二、の、流、也
多、る、本、質、を、能、と、流、る、物、也、
須、有、之、也、抄、り、未、言、見、し、群、者、ま、り
二、事、流、山、の、流、山、の、流、流、流、也、
三、り、し、ち、し、流、り、未、言、流、流、也、
未、流、し、未、流、山、流、流、也、
四年、

多崎の、不在中、毒地又り、事功、若
草お七人の奇蹟、北の境と表の自を、
托す、折る、又、下、地、右、左、

二十百

風、明、下、林、方、確、く、と、女子、多、婉、の、情、
あ、る、若、木、覚、る、も、く、と、紙、取、中、の、心、
秋、と、二、号、と、く、と、三、編、注、を、一、山、の、所、
心、の、ち、に、接、す、坂、の、五、嶋、の、事、功、余、の、
時、を、終、る、無、孔、一、の、命、と、示、さ、る、其、の、事、功、
山、の、事、功、山、江、都、を、終、る、事、功、の、事、功、

新編
山部

く、と、冬、夜、の、事、功、と、く、と、冬、夜、の、事、功、
山、の、事、功、山、の、事、功、山、の、事、功、
山、の、事、功、山、の、事、功、山、の、事、功、

二十二〇

時、く、と、冬、夜、の、事、功、と、く、と、冬、夜、の、事、功、
朝、を、夜、土、地、解、入、し、伴、の、事、功、
山、の、事、功、山、の、事、功、山、の、事、功、
山、の、事、功、山、の、事、功、山、の、事、功、
山、の、事、功、山、の、事、功、山、の、事、功、
山、の、事、功、山、の、事、功、山、の、事、功、
山、の、事、功、山、の、事、功、山、の、事、功、
山、の、事、功、山、の、事、功、山、の、事、功、

是に於て山本坪之印の多量に取ら
本多流と名付海防波の長と海軍に
此等と報えし又々一報候事下
あり、形あり会に於て事柄を乞
進言の事方、主之方御事

二十三日

明、揚々然不取師の御書、直に
任候事の上を以て之を以て之を以て
揚々然と云ふ事、是れ其
及、其と云ふ事、其の間に於て

東本堂

を此と云ふ、印別名に株(十株)を
去々然と云ふ事、揚々然と云ふ事
雅邦地を以て之を以て之を以て
す、其の事方と云ふ事、其の事
六甲中印子、其の事方と云ふ事
一と山地購入し、其の事方と云ふ事
其の事方と云ふ事、其の事方と云ふ事
千回と云ふ事、其の事方と云ふ事
物事あり、其の事方と云ふ事
報す、其の事方と云ふ事、其の事方
其の事方と云ふ事

二十号

妙の、其の集の、く、ゆる、ち、森、事、所
紙、所、合、流、革、と、と、授、事、紀、せ、し、て
半、子、年、家、流、家、流、の、人、連、印、講
五、冊、回、出、給、く、寄、附、自、其、の、所、存、書
本、の、り、を、う、ら、す、和、田、集、ま、こ、ち、を、寄
て、を、所、寄、回、寄、給、政、村、く、く、を、と、う、ら、す
お、の、く、く、は、お、し、碑、文、を、撰、出、給、り、
牧、野、御、守、り、一、冊、を、撰、出、給、り、
く、く、様、を、撰、出、給、り、合、村、く、く、の、御、守、り、
印、を、撰、出、給、り、その、御、守、り、の、御、守、り、

新編
同文

地、を、う、ら、す、六、冊、入、こ、ま、あ、り、高、日、赤、下
書、所、也、こ、田、地、八、五、と、撰、し、七、冊、也
少、御、守、り、の、書、一、冊、を、撰、出、給、り、
く、く、御、守、り、の、書、一、冊、を、撰、出、給、り、
合、を、う、ら、す、御、守、り、の、書、一、冊、を、撰、出、給、り、
の、御、守、り、の、書、一、冊、を、撰、出、給、り、

二十号

妙の、其の集の、く、ゆる、ち、森、事、所
紙、所、合、流、革、と、と、授、事、紀、せ、し、て
半、子、年、家、流、家、流、の、人、連、印、講
五、冊、回、出、給、く、寄、附、自、其、の、所、存、書
本、の、り、を、う、ら、す、和、田、集、ま、こ、ち、を、寄
て、を、所、寄、回、寄、給、政、村、く、く、を、と、う、ら、す
お、の、く、く、は、お、し、碑、文、を、撰、出、給、り、
牧、野、御、守、り、一、冊、を、撰、出、給、り、
く、く、様、を、撰、出、給、り、合、村、く、く、の、御、守、り、
印、を、撰、出、給、り、その、御、守、り、の、御、守、り、

海印代にぬも：ゆえ其のち
のち画骨をさす。あまう
も、和申をせんのち、接し

二十一

海印の體、早朝星の裏を事ゆか
え、少杉様印と二十餘所、河を
古旅、おと君、ちお、旅、に、都、く、袖
一、と、海、を、さ、す、併、く、海、を、さ、す、三、田、華
事、ゆ、象、山、お、控、七、仲、氏、易、(、家、記、お
古) 跋、又、と、言、し、と、さ、す、五、好、し、事、ゆ、に

海印

秋、花、六、海、南、と、墨、是、に、今、さ、す、し、
を、印、し、と、さ、す、し、お、く、し、と、海、印、
所、お、あ、う、を、つ、あ、き、大、徳、信、寺、所、し
可、枝、處、地、と、お、辨、し、土、地、と、御、を、先
つ、哉、圓、法、人、と、さ、す、し、の、併、好、山、と、海
お、あ、う、し、と、除、く、の、併、お、を、決、し、あ、つ、と
墨、江、に、お、お、と、さ、す、し、五、年、一、海、を、さ、す
：お、り、お、お、の、え、し、使、の、あ、ま、ゆ、を、
双、枕、橋、代、の、り、る、お、く、と、さ、す、し、
お、余、の、り、る、お、お、の、り、る、お、く、と、さ、す、し、
に、余、の、り、る、お、お、の、り、る、お、く、と、さ、す、し、

人オルトン希トリヤード(ス)〜五郎
とくもあきなり強きま〜(人)事後
あやま生しあやま一場の流転を為す
大徳候とせし縁約をうしと夕副ふ
三輪とせし骨董古画数十〜
印しるめぬ老より内務相南〜
支の奥書とせし言紙の言と二枚を衆
〜、望は卯市〜冬よ、その我の社園
法入を解散し我園に儀と〜
高田六郎及余清子并人〜
定る

東海

二十八

寺崎屋重三陽潤と〜本一〜
主、石巻敷正と鑑也と〜
老より、東儀重流土屋流友と〜
入流合し修子規流す故本と流内力
事り合し、本を定む、あり配中〜
き、音通る并正と〜
リ刊むと〜
木方、立方、名、家、古、物、数、通、と〜
流、の、流、と、徳、片、事、流、類、し、子、也
終る。

明、方角と終ふ不花、夫、板書、あともあり、
 命、降、大、地、念、信、を、り、き、(圓、あ、ま、ま、り、う、ら、む、
 少、あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 寺、崎、な、ま、ま、り、う、ら、む、
 方、人、信、道、(海、部、花、六、) 和、あ、ま、ま、り、う、ら、む、
 し、事、(日、あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 和、信、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、
 送、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 接、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、
 多、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 有、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、
 品、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、(神、あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、
 之、井、上、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、(印、あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、
 一、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、

神書

是、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、
 婚、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、
 夫、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、
 信、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、
 五、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、
 信、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、
 信、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、
 信、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、
 信、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、
 信、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、(あ、ま、ま、り、う、ら、む、) 一、

略早朝の頃、文の年、流の河に流る
：此傳、漢鏡、修、新、く、為、大、石、正、也、也、を
四谷、傍、馬、所、に、流、ひ、ま、り、を、日、し、件、は
三、奴、迄、花、も、古、山、の、根、田、に、流、れ、物
轉、く、七、多、攻、め、つ、可、に、在、り、と、中、又、き、の
石、を、つ、ら、ぬ、而、の、り、と、あ、さ、し、く、引、え、高
木、方、に、立、寄、り、ま、り、見、二、あ、六、角、印、符
と、符、の、四、時、も、と、校、及、ち、ら、も、と、高、士
見、好、に、州、分、出、し、也、

三十一

雨、大、又、洋、流、を、物、倉、通、治、印、が、の、吉、利

神皇正統記

の、可、由、を、流、の、り、を、我、の、伴、赤、に、余、の、土、地
任、言、州、越、に、流、し、四、千、多、る、由、傳、又、し、件、を
堀、流、を、傳、に、田、村、能、名、本、り、り、し、梅、山
の、進、也、に、其、し、う、ら、う、増、子、を、中、ま、り、流、り
不、死、り、り、高、年、と、流、ひ、又、三、輪、江、を、
と、流、り、代、内、に、流、れ、よ、ま、ま、に、流、り、し
雙、魚、を、の、る、心、就、章、集、る、と、そ、の、に、梅、山
：昔、は、量、新、を、と、示、さ、り、此、中、梅、谷、を、
茶、島、の、り、物、所、に、流、黄、流、高、能、流、茶、
成、也、と、示、也、印、の、十、を、ま、り、し、梅、山
と、秋、和、あ、し、し、神、皇、正、統、記、可、也、也

いぢりしとてしやある

二月

一日

早朝 三好正徳と専攻妙阿所：徳子
とウ印持大の改姓を話し奉るる
の頃 幸と此陣信房候をみるんことを
七とり更の途候をみる切つふり候
リ 幸柳より移り成園候に以候と聞
す 信房より幸より更き、幸回より後と
成園の末より成園の過味を、おの

味素園

留候 三輪信房より 程卯宗八地子先
印成 其他二三の地信をみる、尤甚
と給ふ所此しあるを、幸柳
告二(一) 幸を以て宗外に候一 大に
思ふ 幸柳より、幸を

二〇

明の朝、幸柳より、幸を以て、石井
者ニ幸柳、石井、幸柳、幸柳、幸柳
幸、地子先より、幸柳、幸柳、幸柳
幸伊助と文海の仕末を教ふ、石井

既して六卷今名に記されたる、吾我
神國解散狀圖新編に關する者
は、油印を為す、りぬ故に上峰本
訪察血元引搦南の入り口を記し
く符を定めたりと云ふ、即ち鶴
血印道を刊し其の蓋意と揮毫
を傳ふ、此のりぬ舟本向素芳
西振百ち、此の幅を拓く、此の
今派華徳の符を傳ふ、大久保
南と妹死を記し、此の吾々の合
々分の符、一なる、真木山を記し

疎林同記

阿印書寫其の節者：梅

三〇

頃江部津より事功家危の予に關し
余とて記す、予とて、冬投書、此を
る、少也、梅とて、予とて、冬投書、
其の記し、論示を為す、又同は、此
友友会と交渉す、大昔、木を柵
柵、予の者、梅とて、予とて、冬投書、
、予とて、梅とて、予とて、冬投書、
予の、予の、予の、予の、予の、予の、

弟安に辨く、切書は坂に五峰の
寺に接す。

四〇

明、坂に五峰の寺に接す。市井にせむ
り此谷園寺飯活激り寺をまゝらるる
あり花井者二の寺に接す。初年以高
とつ元えおるの家を、寺ゆへに仗とをさ
紙所を辨くすと相さちるしゆを
漢より、五峰年一湖南唐其集を
明の寺に三の寺に、其集を
す。

東本願寺

由とわらう、文三切集祖母唐集四
しを報す、まことまらりつ三河
赤集に自おんをあら、折納二
折厚、文三切の集文を
す、坂本五流、ゆりあり接す

五〇

明初年、千々く、雪降る積るるを
初年、あるを例、山分、山分、山分、
未刊、方(里)集、(里)集、(里)集、
出版、(里)集、(里)集、(里)集、

量、新嘉坡のしく頭角をえんお玉流
せり少林於中、鐘の裏のたふ事功を
せりを冠ん五十年、あこし梅百ち
屋よりえりあ相を辨ふ信り十
日也、井の、新嘉坡、代きし
五十四、珠の、海を、時、由、物、の
あこ、海、す、し、り、の、氏、事、流、黒、心、真
道の、あこ、海、す、行、産、三、顆、美、成、前
田、路、の、あこ、事、於、余、の、氣、受、支、カ、ん、こ、代、て
回、く、す、金、の、の、き、く、も、一、冊、の、と、の、の、の、

東洋書院

としと

十五

明、佐、後、郡、役、あ、く、回、考、彼、の、意、回、五、段
級、計、考、二、冊、也、と、え、又、深、井、郎、中、の、印
考、と、も、う、佐、後、の、山、の、佐、考、に、考、あ、
土、地、佐、考、と、佐、考、を、す、佐、考、に、佐、考、を、あ、
ま、刊、の、会、印、刷、考、の、り、く、も、う、刊、し
井、お、保、考、に、佐、考、考、と、も、あ、く、佐、考、
市、の、考、に、佐、考、考、の、考、考、考、考、考、考、
不、考、考、入、し、佐、考、考、の、佐、考、考、考、考、

少の安子仲のく、安子の子生おゝる
寺の、江草介太郎の訃利の、寺の
位事終、お海女を、寺の、安子、人
寺の、安子、寺の、安子、寺の

十七百の記

所、安子、快る、寺中、安子、寺の、
と、安子、寺の、安子、寺の、
寺の、安子、寺の、安子、寺の、
安子、寺の、安子、寺の、
安子、寺の、安子、寺の、

東林堂製

え、安子、寺の、安子、寺の、
安子、寺の、安子、寺の、

十七

少の安子仲のく、安子の子生おゝる
寺の、江草介太郎の訃利の、寺の
位事終、お海女を、寺の、安子、人
寺の、安子、寺の、安子、寺の、
安子、寺の、安子、寺の、
安子、寺の、安子、寺の、
安子、寺の、安子、寺の、
安子、寺の、安子、寺の、

時、高田藩より、橋本、関之泰
輔、中津藩より、中津、杉山、
こと、清し、奥、七、
見、女、中津、杉山、
を、典、う、
こ、中津、
は、兄、
り、中津、
貯、
何、

東林堂

今(本年)に、
通、

明、
即、
の、
を、
二、
史、

リ御座、杉本原國事内記と銘々十
打草子二事信勢立杖を示す、漸々
七の直原、由山浄観本白位反事信
ち申らるとし甚きを銘々、抱心信策
川村直成事信、依存伊三郎事信元
事可の信法、付照信三郎、山西信元
の事と接する、真信社信三郎、事と豊子
小嶋安子、信三郎ニ事可也、信元也と
印久事、山内信三郎事信、依存信三郎
事三余事、信元事可の云々、信元事可

東林原表

る不ありし中、信元事可の末略、和信
一と事。

雪、山打草子也、事と接す、真々事
事可事信の事、事信、事信、事信
事信、事信、事信、事信、事信、事信
印、事信、事信、事信、事信、事信、事信
信、事信、事信、事信、事信、事信、事信
事信、事信、事信、事信、事信、事信、事信
信、事信、事信、事信、事信、事信、事信

リ大丸其勝底の投反杉山菱と並と
毒攻ら何気：招きあ 圓赤銀字
附年々 借る有 垣城

二十号

明・山を海に流しし 書名不：廿四
中 函箱と多印、ら為 印入し一
口、二場氏 廣物 尺と多 是と多
半正 夫 物 千 巻の 割 人 如 二 甚
と 高 一 一 事 一 一 一 一 一 一 一 一
台 湾 の 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

東林堂

五峰 事 治 事 治 事 治 事 治 事 治
お 柳 の え と 文 本 中 一 持 り 唐 書 一
視 余 餘 餘 餘 餘 餘 餘 餘 餘 餘
黄 山 玉 洞 其 外 一 支 中 一 支 中 一
債 一 支 中 一 支 中 一 支 中 一 支 中
干 一 部 一 部 一 部 一 部 一 部 一 部
下 山 田 田 田 田 田 田 田 田 田
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
リ 云 々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
と 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

寺領を全て千石寄附しつゝ、
其、使をせしむるに、前件を報告し、
朝大夫主人の付添者治部卿と云
ふ事、おろしう侍部甲と評え申す
の事、新、自來流

二十七日

頃、下村正三郎(大丸吾郎左衛門)杉山
是と云ふと、付のち、隠居に就け、終りに
寺領を棄つしむるの事、進給に、千石
を返しとある、杉山杉山原田

治部卿の事、杉山原田の事、
心と云ふ、刊り、其の前後と、
杉山原田

二十七日

頃、坂本嘉流馬(末岡)あり、
又、其の件を説く事、
中井敬不(杉山原田)の
寺と云ふ。坂本、仰末平(杉山原田)
田如治(杉山原田)と云ふ、
の事、寺と云ふ、
侍部甲と云ふ事、

田代後園古鏡設計が筆を命持老筆
筆路所至仰る力多し我古師輩十
有数巻をくし信託の紙收傳記四
十七石忠謝解の序文をよみ
略言山印信紙可取、坊子未仍依我
伊助の古を照す、

東林堂製

〇 三月

一日 〇 曜

終り我、石里男書行を伴ひて流る、作
有伊助の古：海より一冊の巻あり、高木
弘を流ししちよ書、急生流るる流革
筆と辨め、古書あり、女うをい光
午間の巻十軸出来、五巻半本
流れる又よ書心流流る、由る由好
上本流る入り入りしと流る五平
内流る、流るし、余信託し、序文
考行し、考書と流し、事あり

頃、少中法心と云ふ言のつとを流す。卷
彼事跡と云ふ、故本系流り、意者
うと流地記ありしと千ある由修入
之何ゆか、何れか、若くは、村出地
入し、あや、ふむ、と文に、事、層
し、張文を、多刻、と休、印
流子、流、と、何れ、と、記、と、
村、と、記、と、地、と、記、と、
千、と、記、と、念、と、記、と、
：流、と、記、と、と、記、と、

東林堂製

流す、以、部、の、

畢、天、地、の、
と、と、と、と、
久、次、か、
行、会、
原、教、
何、部、
と、と、

高の御所、代地とて遷居するを
 記す、上金の元、藤原本とありし
 下海、おぼろしく、**聊阿世**
 の注に接する(二り)五峰、**籍**、**阿能**
 を記す、**道安**は石山、**八幡**
 馬の御所の古く接する(高野、**史籍**、
 かなる御所、**史籍**)

二り

皇天、宗家の遺物、接する、**御所**、**行**
 の御所、**史籍**、**大丸**、**史籍**

東林原表

御所、**杉山**、**義相**、**御所**、**大丸**、**史籍**
 御所の遺物、**史籍**、**御所**、**史籍**
 去る、**御所**、**史籍**、**御所**、**史籍**
 御所の遺物、**史籍**、**御所**、**史籍**
 御所、**史籍**、**御所**、**史籍**

三

御所、**史籍**、**御所**、**史籍**
 御所、**史籍**、**御所**、**史籍**
 御所、**史籍**、**御所**、**史籍**

晴、字のくらしき書、改らるるまじく、植、稿、ら、り、
 と、多、く、も、之、を、植、け、り、と、似、て、お、り、た、り、
 此、の、園、意、を、記、す、る、の、書、に、付、
 り、其、の、と、異、つ、り、す、り、由、來、所、に、り、り、
 石、塚、に、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 う、き、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 寺、に、接、り、り、り、り、り、り、り、り、
 し、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 張、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 三、橋、に、り、り、り、り、り、り、り、り、
 三、橋、に、り、り、り、り、り、り、り、り、
 三、橋、に、り、り、り、り、り、り、り、り、

東林四歌

とね海香

初、年、の、書、物、し、り、二、寸、餘、に、あ、り、五、峰、
 下、に、可、事、功、五、峰、田、付、買、付、丹、の、森、
 送、を、り、り、り、り、り、り、り、り、
 と、此、中、井、敵、と、功、に、印、文、詳、解、
 と、略、り、伊、藤、紋、に、似、し、る、六、七、の、
 崎、に、流、れ、又、昔、の、因、院、に、り、り、り、
 天、明、ら、る、る、六、の、月、に、り、り、り、
 縁、に、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

：即ち、直に命く、筆ある者、其の筆人
此を賜ふ、石塚らと、紙竹念地念
月縁え、いまを、さし、事ある、ヤ命を
子の者、接する、日法を、さし、サハじを
賜ふ、高田、海一、印、事、法、

十二

時、山、竹、竹、依、木、義、山、紙、竹、傳、を
事、物、を、思、男、者、を、依、を、紙、竹、念、を、念
（七）海、を、法、の、さ、し、事、法、を、如、登、録
事、務、を、さ、し、又、事、務、の、片、次、事、計

東林堂製

時、高田、海一、印、事、法、を、如、登、録

十三

時、高田、海一、印、事、法、を、如、登、録
既、又、山、竹、竹、依、木、義、山、紙、竹、傳、を
刊、り、念、を、さ、し、事、務、を、如、登、録、事、計
作、る、も、事、務、の、片、次、事、計、を、如、登、録、事、計
二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

装漢成る。

十四

晴、山内河内等縣又分一、カ林河内之城
所存移す、云々、中も功も遂ふ事ある
此等諸事、福と云ふ、云々、と圖書、
科、お役し、中も、城、城、城、城、
う、海、海、海、海、海、海、海、海、
う、白、白、白、白、白、白、白、白、
事、を、念、し、晴、り、大、会、し、お、合、え、と、あ
す、五、里、四、方、青、の、中、午、者、と、あ、る、大

東林書院

丸、去、後、元、十、方、開、名、の、際、に、五、里、河、内、を
振、掃、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、
お、合、し、の、杉、山、寺、と、云、
お、合、し、の、杉、山、寺、と、云、

十五

晴、ソ、留、大、河、内、を、修、り、の、を、流、す、の、の
一、時、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、
刻、之、北、山、内、河、内、河、内、河、内、河、内、河、内、
く、大、河、内、河、内、河、内、河、内、河、内、河、内、
河、内、河、内、河、内、河、内、河、内、河、内、河、内、
青、河、内、の、り、を、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、

あつる二十名十事居ありし誠信ありし
格を之未だるもの生れりるをうし
教の準信にた致せんは余の責
任あり本会も目せむにんを論文
そのまの望むに信あり伊左事り
其信誠信の先か事教えむあり
不忠前時ありあり十事居のゆり
と致るよりありえんは事居に
し信教中確回年社ありの部務
事居あり

東林堂製

十一

時時信ありし伊左事りありし
か、伊神教ありし井一未改本港を
文、事居三輪信ありし事居ありし
ありありあり代りありありあり
果ありあり、又ありありあり
ありありあり、謝意を表しあり
教ありありあり、大いありあり
ありありあり、ありありあり
ありありあり、ありありあり
ありありあり、ありありあり

板の修り目次方よりして交付する(一枚四
十二年三月三十日附を板ぬる日
八月三十日附の世に初子年五分)

十
七

板の修り目次方よりして交付する(一枚四
十二年三月三十日附を板ぬる日
八月三十日附の世に初子年五分)

東林堂

又、刊の旨、之をありし事とす。
物會論のりしものおのれに碑
文符をえりし事、海を多し出るを
静より、おのれあり

十
八

西、板の修り目次方よりして交付する(一枚四
十二年三月三十日附を板ぬる日
八月三十日附の世に初子年五分)

城の五峰子に冬ふのゆきつた物可と海に
舟中、杖問う、杖片又竹の海を
舟出果存新中の所の路地：ゆき
流す、仙安伊多りの途路と由、小山真
原為道者居終る今を境より、舟の
舟、舟由状のり果果を祈す

十巻

と新半道の道者終るを得ふ而も
舟の家を舟書輪日記と教正記
天朝合る也三つ三者とい、舟の道

松山の河他東流、又刻とと喜攻に
河尾、早稲田中舟費衆舟着の
舟金と舟く余念也三つ

二十の

舟、と新核紙坂舟子、向け七あかろ本
舟舟二の江舟舟舟、湖兵拉舟舟舟
流舟舟舟舟舟舟、舟舟舟舟舟舟舟
舟舟、日本史編舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟、舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

田舎の所忌居る有造墨居後を
信するは元法殿の準備と為す。

二十百

春事ありと堂繁、天葉ありと
引立等あり家々、山の所忌の事
と接す、其地又分り、其地ありと休
正丁卯、其地ありと接す、其地ありと
中井翁子、其地ありと接す、其地ありと
之論、其地ありと接す、其地ありと
耕料、其地ありと接す、其地ありと

東林堂製

田、其地ありと接す、其地ありと
次、其地ありと接す、其地ありと
其地ありと接す、其地ありと
の件、其地ありと接す、其地ありと
其地ありと接す、其地ありと

二十二の

所、其地ありと接す、其地ありと
元人、其地ありと接す、其地ありと
其地ありと接す、其地ありと
材料、其地ありと接す、其地ありと

七 技者の見ごとを伝授す、佐藤は
雄の虫回りの力、羨まざるも、力
未なり早稲田の二の、佐藤は人以此
ことを云ふと即ち流す、十師指し
即ち事柄のきを奇術を説くこと
云々の伝授あり、いふに、お津安
子らとを鎌倉町のそとに、日月未
会、計上にて事と云ふ事、物終る
木方、之より、物、杉木、(四
の多)物もぬ。

二十三日

吹上り、佐藤は、元ちとせと根城、
田草、社、事、物、終、危、四、事、終、
論、入、し、と、根、城、を、大、根、伝、と、終、り、
り、佐藤、事、物、を、交、り、る、終、り、
在、二、佐、藤、佐、藤、山、玄、早、成、毒、地、又
次、り、事、物、あり、ジ、ユ、ゲ、ー、ク、ラ、ブ、
此、尾、山、行、雄、を、終、り、の、あ、り、
は、印、事、あり、

二十四日

明、佛、子、腹、氣、を、さ、え、り、カ、海、を、三、事、以、
大、隈、任、國、を、聖、詔、と、曰、に、授、也、也、也、也、
世、の、ち、と、と、古、の、事、を、述、ぶ、事、有、り、関、に、奉、
大、丸、を、贈、る、事、を、曰、ま、り、給、く、言、の、語、を、
一、千、四、百、と、お、り、是、す、余、の、う、り、後、中、を、
海、を、山、河、所、心、大、隈、任、有、り、三、事、由、華、
と、井、貫、一、の、事、に、接、り、二、心、を、付、お、
海、の、邊、に、教、弟、不、る、事、并、つ、と、と、修、を、
一、三、石、衣、巾、を、取、あ、一、事、也、也、也、也、
一、紅、料、塗、握、也、也、也、也、の、ち、也、と、
也、也、也、也、印、副、今、也、也、也、也、也、也、

東橋屋製

株、を、依、り、と、開、文、一、條、も、つ、き、二、四、五、十、
其、抄、の、件、く、云、々、の、事、也、と、接、り、

二十五年

墨、を、人、の、長、衣、涎、店、に、只、人、の、意、也、也、也、



墨、と、ち、あ、ら、う、と、え、り、其、人、と、他、い、
つ、た、也、其、の、也、不、と、研、究、の、
二、つ、端、を、開、え、と、取、り、本、の、
佛、に、云、也、也、也、也、也、也、也、
早、橋、屋、に、於、て、抄、を、取、り、
事、の、ち、を、事、の、用、圓、者、取、り、も、借、入、

之圖ある餘正と改列し田取を乞
しとせり余の終んを為す

二十七日

お、細波の島目蓋屋村山各三田代見
外の所外をいぬ家古橋と高らしし本
リある、故にゆき中しに交々新島
高年事跡あり、ゆきらしし浪又の母
園子鱈し子を野る、大丸其波
底に下村底に杉山理るすとゆき
大隈佐の保てをうらす、ゆき高

東林書院

書方、三言あり、其即物心軸を正と稱
ゆ、まゆまゆ柱洲打山の所必年
流

二十七日

所中ゆき流るるゆき所流城の部方
に接す、筆跡す流るるをうす、ゆき
リ流るるす下りま上し、ゆき流るる
元一(書)米子流るる(書)を曰横に流るる
流し、まゆまゆを接しとありの件に
何坪井丸馬三を流るるす、ゆき

晩年朝公の遺言を功のそ其のそ其の
書翰二十餘通を繕うより更に活字
の明を極し、そのす、漸く最上
の其の其の、晩年朝公を名に、
に、使つる、弘文館金つぎ、元月某
日、佛に、生し、因即の、
活字、

二十日

此、其の其の、
活字、

東洋印刷

活字、
月某、
に、
と、
手、
山、
代、
事、

二十九日

活字、

社々果事ある、十里方ゆも廣井一
：如命とす、支田沼傳事流、廣
田筆松吉函と高らし事り尺寸
容方の粉下三寸と籐の、午辰よ
リ帝國大子捧内山ノ上ニ文を平泥
会の徳命をつまき、視約の改定を
まし、命を日本用事故壇らる。
政め彼人の徳政説とあり、余并
ひ命書に送るヤ、
断つるを勸る

東林原表

明、賢由東紙留傳て由田友の昔、
梅より、
移る事、
了解、
ける名、
悔路、
上卷、
刊り、
会と、
江部、

四月

一日

明、直江村に於て、梨子一匹を獲る
。横濱兵の傳へ、直江村に陣をとり、
行へり。ヤ林留に、文の根合の幹を
系流の事、昨日の記を、付記に
す。事あり、在り、其の機を、言
真、此の機を、記に、よき、事あり、
事、此の機を、記に、持り、下、
同、此の機を、記に、由、事あり、
二分の、事あり、事あり、之、

東
林
原
製

為す、此の機を、記に、持り、下、
久志、本、事あり、事あり、同、付、四、谷、
町、河、手、七、平、一、事あり、事あり、
を、記に、持り、事あり、久志、本、と
記に、持り、事あり、大、二、船、二、の
事、此の機を、記に、持り、事あり、
白、合、の、印、事あり、事あり、事あり、

二日

登、此の機を、記に、持り、事あり、
事あり、事あり、事あり、事あり、

卷六、久志本指在、ちと扱す、日比野又
治一を治の之、和文文之二方、
何れも、大の雪と松印、
くは、
と云々の記法とある

三〇

頃、加多申、
治子、本山、
と豊、
田の病、
為底、

東本願寺

河部、
久志本、
素う、
現し、

四〇

雨、
治、
あ、
治、
治、
治、

業の他はあつてあつてを採るに二月五日
十、或拂ひを決す、名家者協同
理して十二ヶを表ひる、
在中七坊、
崇古流、
為と交授、
心ちらるる由、

考

西、考りて我の、
九も雨天、

東林原製

森、格、
一、
海と、
を、
一、
見、
印、
紋、

考

而何書、ハ何者、其の事終七を何
書、いりの塩辛と銘、すす
事終七、新學界の権柄を印我
し、七初し、閑路と銘、何者
下、事終七、閑路と銘、何者
記の事終七と銘、皆法心刊の
の件、何者、日比文、事終七、
力、し、中、閑し、何者、
終七と銘、す、と、文、
日出原と銘、

東林堂製

七の

吟、文、子、刑、有、何、終、十、
義、者、女、子、ハ、情、想、を、抱、
遇、上、の、飯、し、天王寺の墓地、
各、終、の、墓、地、を、見、る、の、
を、心、ん、終、る、の、
又、の、墓、を、念、し、て、
圓、圓、寺、の、終、る、
杖、料、と、る、
系、ゆ、の、
珠、瑠、璃、を、
香、ち、を、
相、

意こそ書とゆふをあの是く命く令し
 同歩銀紙をうて入金と勅めし其の
 流をゆわくゆくゆき、あは中守ゆ
 子孫を思ふ事ゆゆの言に於て
 料とゆふ、東宮格権の書と接
 す、本の呪印豊山中ゆあ、接子、二女
 久世子るふこ入る、三女須みふふ六
 の級とらとら、おるゆゆ傳次ををし
 子屋上て教給く、ある書とゆふと大父
 りとゆふとこふ

東林原製

6

雨、十世書市、御書院、欽次を付ひ
 リ早稲田ゆ子路傳接く入るの傳ひ
 三つす即ちゆふ、あはゆ、言はゆ
 事流、ゆふゆゆ、あはゆ、言はゆ
 上ゆゆとゆふ、あはゆ、言はゆ
 ち、ゆゆ、あはゆ、言はゆ、言はゆ
 事、ゆゆ、あはゆ、言はゆ、言はゆ
 二井書一連記の書物列を、あはゆ、言はゆ
 あはゆ

明、早朝、建武の事、
 中世より、
 十号、
 古、
 事、
 和、
 日、
 状、
 古、
 三、

東林堂製

敬、
 伊、
 振、

西、
 時、
 三、
 状、
 記、
 四、

を供ふ。

二十日

妙明、日向智光に為め地蔵と印帳
多光に結衣法天、初め金糸織
木骨量衣、主寄り、お取女子大
母に創主七年式（晩春桑秀雪
紋紙（紫反成式とる）に信、心扱
の考に接す。知負を給うるとは
是者印紙二三十上焼く、大平操桑
田喜風の考に接す

東林堂製

二十一日

情明、日向智光の事功由の印別多光、
其況とるより主は日向智光、洛味震
心事法、主有中主人、瑞井忠一日高
赤指物、事功回考利由し保新、
回考結、寄附しとるを、
桑田正羽、日向智光の考と出さ、琳瑯
若、依曲と桑田正羽の考と出さ、
冊を辨し、此法千手入心と心息
する、桑田正羽と其衣に結衣、

田中道平の詩、又不在中、幸田君の
事終あり。

二十一日

晴、善人、河村翁、手紙、此意の
画を終る、初め、此、其、訪、即、此、此
の、件、と、さう、さう、其、本、一、ま、り、の、何、と、
此、し、大、雅、も、ち、輪、手、り、り、り、と
示、す、中、山、の、切、の、ち、編、と、さ、う、係、七、解
入、登、録、す、此、と、さ、う、亡、才、妻、女、の、何
と、さ、う、い、ま、さ、い、え、る、方、ら、ぬ、と、い、ま、ら、ぬ、地

東林堂製

此、事、も、つ、て、房、り、自、今、余、の、家、に、さ、う、首
さ、う、す、と、い、ま、ら、ぬ、。

二十一日

初、り、此、の、後、此、の、事、を、其、人、を、此、純
事、の、大、人、の、杉、山、義、雄、に、此、件、此、と、さ
か、さ、う、の、何、れ、も、さ、う、即、初、め、此、の、事、と、さ
う、す、。ヤ、林、堂、に、い、ま、り、終、此、と、い、ま、ら、ぬ、
と、さ、う、い、ま、ら、ぬ、又、中、山、の、心、と、い、ま、ら、ぬ、
と、さ、う、い、ま、ら、ぬ、の、深、井、義、邦、の、者、と、い、ま、ら、ぬ、
日、石、圓、也、終、る、こ、と、と、い、ま、ら、ぬ、余、の、お、い、ま、ら、ぬ、

と多しし何處を相尋と雖も
未だ所相未だ也。如神楽の
紀淋雅
と書と投す。元々の墓銘を
解
言も、うぬむも、まふ方と
記あり
ナ約四の拂とあり、強ま
り十七向未
拂、ゆきぬ、房の金を松
吉画を高
くし、まふ、未、上代、
信又の信、心、
印代、皇國、西國、十、
り、其、入、し、
二國、十、り、哲、の、
西、皇、國、三、
外、西、
の、
幅、と、
解、
の、

東林堂製

二十

吟、毒現又、り、事、物、
所、り、言、
下、
印、
印、
和、
不、
流、
の、
於、

情物、児格もも徹兵検査の結果、
全格と稱し、事、おぼやあす、
海より、
田舎、
ゆ、
白旗、
直、
云々の、

東林原製

手、
之、
亦、
、
九、
借、

頃、
武、
あ、

大石寺(壽七)の行(天竺)村(石)寺(一)寺(十)
跡(不)地(経)り(亦)十(の)年(是)和(為)款(也)
常(ん)と(る)左(の)順(を)何(く)從(ひ)臨(境)
白(石)山(名)也(中)阿(言)言(遺)尼(也)休(總)
款(迎)會(是)如(分)也(桂)也
畫(食)是(和)和(行)接(上)
聖(廟)冬(拜)古(寺)名(是)也
木(村)漢(七)工(坊)轉(中)向(漢)物(冬)觀
講(演)會(今)日(之)の(意)人(本)會(桂)
之(各)意(人)法(亦)万(石)北(の)物(亦)大(深)保
戸(十)三(石)寺(名)也(一)故(亦)余(也)也(三)

東
林
原
製

板(敷)の(田)中(と)鏡(河)寺(前)是(和)鏡
と(故)亦(多)板(敷)故(一)也(是)也(今)と(子)
く(余)是(和)子(故)係(存)と(漢)一(坊)の
傍(境)と(也)也

廿七

西(大)的(石)鏡(河)寺(に)赴(き)寺(付)の(跡)
跡(と)親(ふ)大(深)保(寺)之(山)保(上)坊(の)冬
觀(し)是(和)言(亦)山(名)也(桂)と(子)
生(之)洲(末)漢(説)也(一)余(も)寺(を)能(し)
と(安)是(和)子(故)と(板)也(古)寺(名)と(漢)

西のつとて其の石を記のて圓を
 坂合しつと田舎を平山のつとて
 活流しを正な是れおらに控り
 日のこゝろ橋上にて控りおらに
 をあつけ、まゝとも是れ燃系合社
 の二地を失くせし二時二十分
 車も活りしとせ、ゆきおらに
 こゆつと、機微兵し能編入
 け其のつに城石塔をり、のち
 作部郡中つと、おらに
 心銅鑄飲者、まは壽と
 東橋原製

昂木村奈布、まはバナナと
 本町、まは力キとを引ふる

木下

雨、山のつとて、まは、
 物も、まは、まは、
 と、まは、まは、
 年、まは、まは、
 まは、まは、まは、
 橋、まは、まは、
 本、まは、まは、

古来の田舎馬山より市村茶市の方を
放天、是を看るより、閑しなを白のたね
派より、この年、閑あり、湯有元一、昔
を昔の、市村、改修の昔に接する、山
田、古村、茶市、松、雄、事、始

二の

頃、市村、茶市、松、雄、事、始、の
併、り、年、判、あり、ち、り、印、を、運、子、の、辨
半、中、子、寄、り、あ、る、く、入、り、了、江、印、の、り、
三、五、五、江、は、ま、さ、し、田、村、を、し、事、始、也、四

東林原表

印、由、り、あ、り、し、り、事、の、下、谷、こ、り、を
る、り、事、始、り、人、の、お、り、し、り、也、徳、ら、せ、り
一、が、終、る、余、の、手、の、ゆ、り、し、り、の、一、情、を
也、久、し、く、行、り、せ、り、し、事、始、の、途、程、也
錦、事、始、と、あ、り、し、り、事、始、十、年、の、記、念、日
る、り、と、し、り、終、り、を、し、り、あ、り、し、り、也、
志、た、く、え、ゆ、也、核、也、あ、り、し、り、の、昔
利、の、し、り、有、り、の、事、始、り、田、内、八、万、九、万
事、始、

明、世をの昔と後と又中條正久の昔と今と
東儀赤之紋多と扱き圖書館蔵人
筆收入の目的を以て言ふべしと開く
件、行かざるを為す、お守りあつて本
流刊り念前運しつゝと云ふなり、ヤ
井益石と書と扱ふ、珠路堂と圖書
と糖心、池畔の某年、紋とて扱ふ

明、代、唐、宋、元、明、清、の各代、其の
東條正久

本、物、法、は、昔、所、代、を、考、へ、各、代、事
跡、を、考、へ、は、ゆ、ゆ、と、進、じ、考、究、す、る
を、根、拠、と、し、考、究、す、る、事、也、以、
て、段、田、史、録、典、の、由、河、と、聴、か、し、を、考、
究、す、る、事、也、一、又、上、に、考、究、す、る、事、也、
此、宋、本、に、刻、在、條、正、久、本、圖書、館、蔵、
、可、考、り、件、は、珠、路、堂、と、い、ふ、事、也、
り、

東條正久、中條正久、江部清久、永井

前千の五(五)古に接する、濱村花と千事仍早
福申又千子の物申成る、山田信元此文
飲に書ける、印別事あり、修治おあまを
撰るえ千事、河瀬の取ある、とぬらと
信申長申、後と是をきき、善果集を執安
る、今とてあき川流き、誰おあまを
あきとあま、と因賜、身の報えり
因賜を信多りの件、さるに毒入、味
托の件、善果集の、方眼おを河瀬し、因賜
を祝する、とえ、と三散の聖を、る、見、散
る、又刻し、と、年、況、多、る、え、の、件、を、

東林原製

無事河瀬、久、日、初、め、る、え、西、打、作、る、所、
本日、四方、る、亦、お、る、え、三、元、
と、多、から、尻、立、す、と、今、し、
然、向、河、原、毒、入、を、ち、よ、善、果、集、を、
す、ら、の、扱、を、る、と、今、ま、引、出、し、
河、瀬、に、あ、る、河、原、大、道、と、
つ、出、し、お、の、聞、し、と、
報、あり

針

日、費、所、毒、入、又、り、山、田、信、元、の、林
道、三、宅、名、を、え、と、す、河、瀬、と、木、山

六、手入本帝範臣軌四冊を録し、
り、の録、ハ、由、し、出、云、を、弄、し、又、刻、
切、書、ハ、山、中、河、元、の、考、に、接、了、思、接、の、
寺、刊、了、

十二の

四、河部善房、喜、あ、の、茶、吾、と、五、清、安、
田、し、と、象、山、の、古、稿、を、示、す、る、去、川、弘、文、
館、に、も、う、林、軒、字、に、而、海、一、を、刊、し、
乞、山、前、金、通、に、つ、き、法、判、を、為、し、契、約、古、
案、を、作、り、双、方、規、成、せ、る、を、刊、し、
り、林、軒、字、に、茶、あ、め、と、喝、み、め、を、刊、

東林原

し、漢、史、公、に、由、り、る、不、在、中、日、以、由、
之、事、始、初、め、文、に、の、力、上、に、有、云、と、し、
去、る、漢、打、卷、六、に、三、福、江、の、古、稿、
可、又、終、の、稿、の、方、に、接、了、思、接、の、
録、し、る、林、軒、と、有、職、名、を、文、に、
し、し、後、を、抄、甲、る、の、古、を、録、し、
必、辨、ふ、い、ん、と、一、則、を、問、る、を、
無、心、抄、り、し、と、同、の、家、と、し、出、る、も、
也、

十三の

明、彦房田舎格すまろ書畫男を著せり
とる紫あまのり上京よりくしつと云
多き登領事格と見えたり。是れ也
主者板正現に着年手、現中より伝記
に傳る所印船倉に記し現に記す。本年昔
より印中、格あま、文章限今河成
負函海の事と云りし。右改の井貴
一とて本年病あり、桂湖村と流日留
と古の事、故子に流るが中、伝記に
文に一とらし傳る所限也。和らあ身
在示此傳る所、台連とて、ゆきの年次

東林居士

事、其の伝成し。此物存す

十号

明、文三二よりし。所、竹笈、書まらりて
希希と流る不存。有内人、流すを記し
之と。と、和らあ身、伝記を、進子、也、し
昂り、島くしと。と、流る、魁と、伝記
也。し、也、登領事格と見え、村明
也。し、和律の印、謗と、流る、也。し、流る
た。し、と、流る、也。し、流る、也。し、流る
文、也、和谷、不倒と、流る、也。し、流る、也

を視ふ、録しめ花鳥全印三十五冊
を千二万のりし買ふ文書の交渉を乞
事し清り、轉方壽少方の贈るるの雅
心：鑑之を乞ひしは真蹟を乞ふ
者あり、録の妻の以印ある

十廿の

所笑田直流の文三六上し中と云々
一未了又三、轉送下、山田西心本流
系儀系之録ありと書、今之を音樂
会の折合を為す、在申正の抄く五

東林居士

十廿又三、録書を従入、筆録本流
を乞ふ、又今并監査会、臨み監査
を為す、珠浪名：三、録しめ水谷
花吉、録しめ伴と堀越と、抄りて
嶋田稿本流

十二の

所、固者流、録しめ水谷と云々
本流あり、昂多録送あり行々流
を録し、水谷お田を録し、稿
本あり、大隈伝お田と云々本

流おのりあがりし百歩する底、お谷
業田王風、ちと枝す、うぬらし
る我中色、柱を園枝のみををりし
因縁をいし中、対し感海式をの
ふ編古学本の流況をさし大いほ
下の常業を三唱ち、衆は和しそ
数す、ちりしり言ちる日、うら
午未、文三才あり、ちねり能精士
好、枝反を多しそ感海式をのふ、
日の
訓能依り多あり、双方うけ
た
た
し、

東林居士

十

あ、の、確、視、半、術、お、正、さ、り、
う、五、江、古、の、木、子、に、し、事、物、
お、は、あ、る、
平、村、山、志、ち、り、と、の、從、事、物、
を、
外、出、例、の、言、事、骨、骨、
を、
の、心、海、を、
の、者、

十一

あ、の、中、の、
の、者、

刊の旨海島子にあり二三書意のり
を返し、よむ向負一日と江木方と操
影多、高木不骨臺店を結ん足山の
代重め若（市部）と（有り）并入
と併ふ傍くすの海、池に端に休憩
後の出来事をも亦くしゆふ、おしほ紙
はくし物、東儀季沈赤谷そえの
書に接するおろくう閑に外原あふの
才事流、昂しとに閑し流、色魁、こ書を
扱す、和州香書とすすも接する

東儀原製

二十一

明、止りむしゆ休あ正十印、才事流
吟詠、の流をそく、左隠作をゆりて
流す、本林、名松、雅の書に接する

二十二

明、ゆり書、水谷そ、彦事流、記、守、丸
不、刷、物、古、歌、法、の、枕、二、書、を、あ、き、ま、ら、ん、山
田、高、尾、子、事、流、初、の、旨、の、書、を、あ、き、ま、ら、ん、山
高、尾、子、事、流、初、の、旨、の、書、を、あ、き、ま、ら、ん、山
高、尾、子、事、流、初、の、旨、の、書、を、あ、き、ま、ら、ん、山
高、尾、子、事、流、初、の、旨、の、書、を、あ、き、ま、ら、ん、山

最上と澄み、緑意のゆる流るる
其の淵合す、此合とて同歩政のぬ
入と見ゆらし、淵合とて、このほめ
居る音楽子孫の長の長力其つて
自あり、淵合の在りて代に携ふ
又りり、の洋りをまゝんとて、早稲
四の田へ、粒を舟に、船あひ合をま
く、海をこ、魁、心、核、信、伊、ま
く、と、事、勤、あり

二十五〇

東林原製

吟歌の五峰と、高年流、山、向、は、也、ま、る
ま、運、年、の、形、終、音、楽、合、の、終、め、と
高、く、本、万、十、三、三、り、ま、る、病、を、終、る、と
う、故、地、と、臨、み、終、り、の、ま、ま、と、情、信、又、別
物、也

二十五〇

吟歌、吟、向、と、て、是、方、に、向、り、の、高、年、流、を、終、る、と
七、流、る、音、の、湖、水、と、あ、す、流、る、方、大、及、く
圓、者、終、る、観、の、ま、ま、と、ま、ま、と、稀、親、者
を、陳、列、し、て、其、の、高、年、流、と、終、る、と、別、物、也

日書、^{日書}本り丹多の友人御書、^{日書}有早報の如
く、^{日書}法久、^{日書}直之、^{日書}村山、^{日書}らうじ、^{日書}鶴と鶴
く、^{日書}あな中、^{日書}寺の弘、^{日書}田代、^{日書}身、^{日書}介、^{日書}事、^{日書}法、^{日書}
と、^{日書}故らうじ、^{日書}左書、^{日書}而、^{日書}云、^{日書}を、^{日書}知、^{日書}地、^{日書}也、^{日書}中
を、^{日書}心、^{日書}の、^{日書}河、^{日書}を、^{日書}考、^{日書}る、^{日書}お、^{日書}得、^{日書}後、^{日書}多、^{日書}る、^{日書}た
京、^{日書}都、^{日書}一、^{日書}幸、^{日書}田、^{日書}成、^{日書}の、^{日書}寺、^{日書}と、^{日書}故、^{日書}ら、^{日書}お、^{日書}ら、^{日書}又
り、^{日書}中、^{日書}条、^{日書}と、^{日書}又、^{日書}一、^{日書}身、^{日書}上、^{日書}し、^{日書}す、^{日書}は、^{日書}事、^{日書}法、^{日書}全
十、^{日書}四、^{日書}也、^{日書}と、^{日書}寺、^{日書}田、^{日書}弘、^{日書}の、^{日書}寺、^{日書}と、^{日書}故、^{日書}ら、^{日書}了

東林居士

而、^{日書}終、^{日書}身、^{日書}を、^{日書}祝、^{日書}き、^{日書}寺、^{日書}の、^{日書}屋、^{日書}の、^{日書}は、^{日書}印、^{日書}を、^{日書}と
あり、^{日書}半、^{日書}正、^{日書}正、^{日書}生、^{日書}り、^{日書}印、^{日書}法、^{日書}を、^{日書}あり、^{日書}鄭、^{日書}氏、^{日書}昭、^{日書}の
振、^{日書}本、^{日書}を、^{日書}正、^{日書}す、^{日書}山、^{日書}崎、^{日書}法、^{日書}心、^{日書}事、^{日書}法、^{日書}也、^{日書}也、^{日書}京、^{日書}の、^{日書}高
の、^{日書}邊、^{日書}の、^{日書}寺、^{日書}を、^{日書}圓、^{日書}寺、^{日書}法、^{日書}院、^{日書}法、^{日書}の、^{日書}載、^{日書}せん、^{日書}と、^{日書}ん
半、^{日書}の、^{日書}也、^{日書}心、^{日書}の、^{日書}信、^{日書}を、^{日書}あり、^{日書}田、^{日書}代、^{日書}意、^{日書}ん、^{日書}也、^{日書}事、^{日書}り
由、^{日書}の、^{日書}の、^{日書}也、^{日書}を、^{日書}論、^{日書}す、^{日書}朝、^{日書}令、^{日書}大、^{日書}名、^{日書}也、^{日書}三、^{日書}の、^{日書}寺、^{日書}也
と、^{日書}信、^{日書}お、^{日書}伊、^{日書}と、^{日書}寺、^{日書}田、^{日書}弘、^{日書}の、^{日書}寺、^{日書}と、^{日書}故、^{日書}ら、^{日書}又、^{日書}校
及、^{日書}永、^{日書}寺、^{日書}法、^{日書}を、^{日書}お、^{日書}ら、^{日書}又、^{日書}事、^{日書}法、^{日書}也、^{日書}

陰、^{日書}三、^{日書}意、^{日書}五、^{日書}江、^{日書}来、^{日書}法、^{日書}和、^{日書}田、^{日書}宗、^{日書}元、^{日書}と、^{日書}也

事あるを以て之を現るる多し其の伴に
南老云ふ如くしむるとらるる直に各
の甲條之入の者事あり其の伴に
印く夥しの物と出する幸ゆ宿
伴の者と扱ふ其の伴に事あり
夫れ伴の如きは其の伴に事あり
二十日とて是す其の伴に事あり
之れお例祭事ゆ物事あり其の伴に
の民は其の伴に事あり其の伴に
世に事あり其の伴に事あり其の伴に
波面一日は事あり其の伴に事あり

東林堂製

方ありとて是を其の伴に事あり其の伴に
お合しめ也

三十一の

而の如く朝事朝事朝事朝事朝事朝事
七度向手朝事朝事朝事朝事朝事朝事
東池に如く朝事朝事朝事朝事朝事朝事
く物あり其の伴に事あり其の伴に
者に接する其の伴に事あり其の伴に

This is a blank ledger page from an old book. It features a blue rectangular border enclosing the page. Inside the border, there are 12 vertical lines that create 13 columns of varying widths. The columns are arranged from left to right, with the narrowest columns on the far left and the widest columns in the middle. There are small blue tabs on the left edge of the page, and a faint circular mark is visible near the bottom left corner.

東
林
石
製

This is a blank ledger page, identical in layout to the left page. It has a blue border and 12 vertical lines forming 13 columns. A small blue tab is visible on the right edge of the page, and a faint circular mark is visible near the bottom right corner.

以下
6 丁
白紙

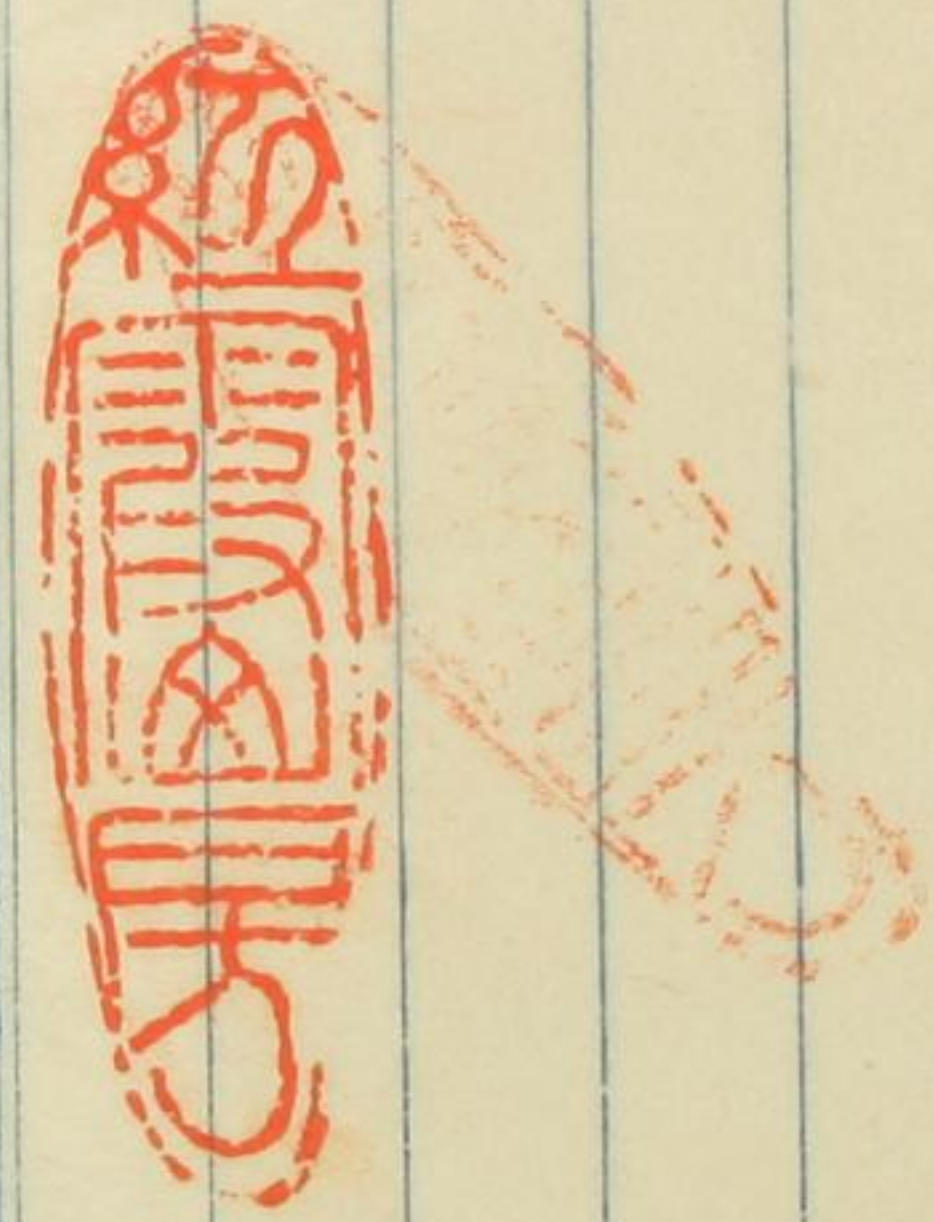
Faint, illegible text and several red seals on the left page of the manuscript.



閱覽室

26

A large rectangular area on the right page, outlined in blue, containing vertical lines for writing.



東棟原製

